

「スポーツにおけるパワハラ  
を考える」

大阪教育大学教授

堀 薫夫

最近のニュースを賑わして  
いるテーマとして、スポーツ  
の世界におけるパワハラ問題  
がある。ボクシング連盟会長  
による問題に日大アメリカン  
フットボール部やチアリーダー  
の事件、水球に女子レスリ  
ングとこの手のニュースが頻  
繁に取り上げられる。なぜこ  
うした動向が顕著になってき  
たのであろうか？

パワハラとは、「職場など  
での優位性を背景として、そ  
の影響を及ぼす相手に対して、  
限度をこえる身体的・精神的  
苦痛を及ぼす行為」だといえ  
る。セクハラと同様社会的地  
位の上下関係が前提となる。  
しかしセクハラと大きく  
異なるのは、これが指導や教  
育や師弟関係といった美名の  
もとに行われることが多いと  
いう点であり、場合によって  
は、美談や感謝で終わること  
もあるという点である。くわ

えてこれらの事件の多くが従  
来は当然視され黙認されてき  
たという点である。自分が受  
けてきた指導形態をそのまま  
次の世代に向けること。しか  
し人権感覚という点では、時  
代の感覚はまちがいになく変化  
してきている。さらにネット  
などを介して、一般市民が情  
報を発信しやすい時代になっ  
てきている（Me Tooな  
ど）。

またスポーツの世界では、  
選手を試合に出す／出さない  
などの決定権を監督がもって  
おり、この影響力は学校の授  
業での教師の影響力よりも大  
きいといえる。いずれの場合  
であれ、上位に立つ者の人権  
感覚の自覚の有無が重要なポ  
イントとなるだろう。

それにしても、なぜ急にス  
ポーツ界のパワハラ等の記事  
がトップニュースとして多く  
扱われるようになったのだろ  
うか。その背後に隠されてい  
る重要な事件から目を背けさ  
せているようにも思える。例  
えば文科省での収賄事件とか。